



昔から伝わる遊びにチャレンジ！（1年生）

1月27日（火）に1年生が、昔の遊びの体験をしました。こま回し、お手玉、あやとり、羽根つき、けん玉、だるま落としなど、昔の遊びは、たくさんあることを生活科で学習をしました。そして、地域、保護者の方の協力を得ながら、みんなで昔の遊びにチャレンジしよう、というのが、今回の活動の大きな目的です。

昔の遊びは、手や足、体全体を使った遊びが多いので、巧緻性（器用さ）を育てることにつながります。目・耳と手の協応も図れます。ゲーム機では得られない本物の手触りも感じられます。

昔の遊びを楽しんだり、上達を実感したりすることも大事なのですが、今回の活動では、人との関わり方を学ぶことも大きな目的になっていました。地域の方に教えていただく、保護者の方と一緒に活動する、友達と仲良く遊ぶ、そういった中で、コミュニケーション能力や思いやり、協力といった集団生活の中で欠かせないことを学びました。

シンプルな遊びだからこそ、工夫もできます。こま回しでどれだけ長く回ったか競争したり、ヨーヨーで新しい技を考えたりすることを、1年生なりに取り組んでいました。子どもの自由な発想も、昔の遊びから生まれていました。

地域の方は「1年生はとにかく元気。子どもたちから元気をもらいました。」とおっしゃっていました。子どもたちの活動が地域の方にもよい影響があれば、学校としてもうれしい限りです。今回ご協力いただいた、地域、保護者の皆様、本当にありがとうございました。

「防災」への意識を高める（5年生）

5年生の総合的な学習の時間では、「防災」に取り組んでいます。今回は、地域の方を講師として招き、「防災食」について学習しました。限られた材料と水で防災食を作りました。片付けも、限られた水の量で行いました。

子どもたちは楽しく防災食づくりに取り組み、自分たちがつくった蒸しパンをおいしく食べていました。講師の方が、「防災について考えるとき、楽しく活動することが大事」とおっしゃっていました。確かに、理屈や恐怖感だけでは、防災への意識がかえって下がってしまうかもしれません。「ローリングストック」も、家庭で楽しくできる取組だと思えます。各家庭、各人に防災バックを持っておくことも大切です。いざという時のために、知識、物品、技術、防災意識を備えておきたいものです。

